

第8号 稲作管理特報

令和2年10月2日
朝日町
黒東地域農業技術者協議会

「いざ土づくり！ 美味しい富山を届けよう！」

健全な土をつくることは、天候に左右されない安定した強い稲をつくり、高品質で美味しい米の生産につながります。不足養分の補給や有機物の施用など土づくりを進め次年度の作付けに備えましょう。

◆ 秋の土づくり運動実施中 11月15日(日)まで ◆

ポイント1 秋耕の実施 … 5月の田のワキの改善

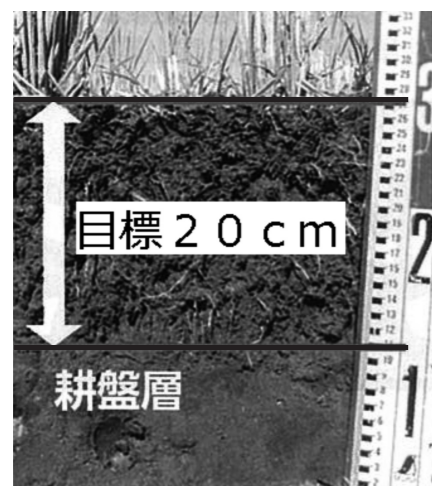
- ・稲わら(及び籾殻)は、地温の高い10月中にすき込みましょう。
- ・秋耕後は、排水溝を設けて水はけを良くし、腐熟促進に努めましょう。
- ・長雨等により、ほ場がぬかるんで秋耕ができない場合は、まず排水溝を設置し、水はけを良くしましょう。

《 秋耕後の排水溝の設置 》

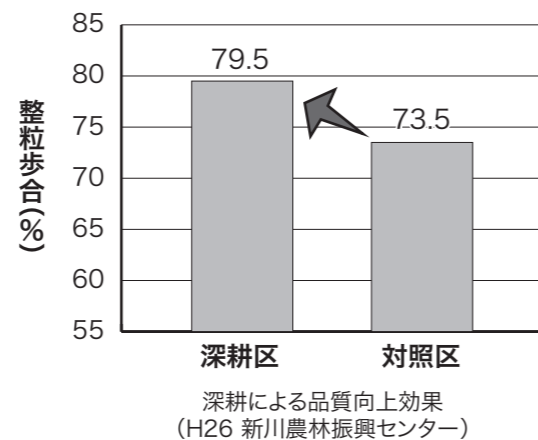
深さ20cm以上、4～5m間隔で排水溝を設置し、排水口へ連結することにより、ほ場の乾きや稲わら等の腐熟促進の効果が高まります。

★稲刈り後に石灰窒素を施用(20kg/10a)し、秋耕をすると稲わらの腐熟促進に効果的です。ただし、倒伏しやすいほ場では次年度の基肥量を2割程度減肥してください。

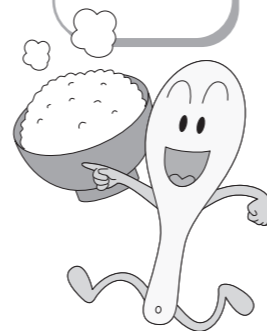
- ・15cm程度の秋耕と春耕の2回耕起により、作土20cmを目指しましょう。



根域の目標20cm



積極的な土づくりで、
収量・品質のよりいっぺんに取り組もう！



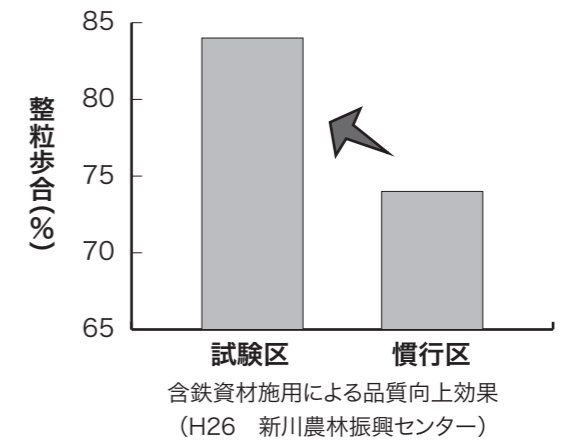
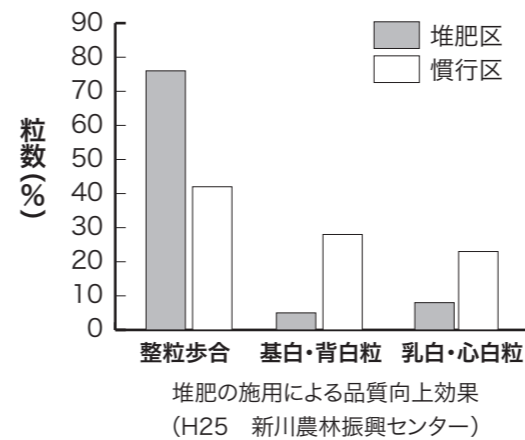
ポイント2 有機物の施用 … 地力の向上

- ・有機物を積極的に施用し、土壌の腐植分や保肥力を高めましょう。
- ・稲わらや籾がらは貴重な有機物です。ほ場へ還元しましょう。
- ・堆肥や発酵鶏ふんは、近年不足しているリン酸やカリの補給にも効果的です。

○牛ふん堆肥(1～2t/10a)または発酵鶏ふん(秋施用120～150kg/10a)

《 有機物施用の効果 》

腐植の含量が高くなると、土壌の透水性、保水性、通気性が良くなり、養分の保持力が高まるとともに、微生物の増加が促され、地力が高まります。



ポイント3 ケイ酸質資材の散布 … 稲の体を強くする

- ・土壌中のケイ酸含量は施用を中断すると急速に低下するため、継続して施用しましょう。

主なケイ酸質資材(10a当たり標準施用量)

珪酸石灰(粒)	・土壌pHの矯正 ・倒伏やいもち病に対し、抵抗力が増す	160kg施用
シリカパンチF(鉄10%)	・土壌pHの矯正 ・倒伏やいもち病、ごま葉枯病に対し、抵抗力が増す ・鉄の供給により、秋落ちや高温障害の低下	120kg施用
アサヒニューテツ(鉄16.8%)	・土壌pHの矯正 ・倒伏やいもち病、ごま葉枯病に対し、抵抗力が増す ・根腐れの軽減	160kg施用

《 ケイ酸質資材の効果 》

pHを高め、作物の養分吸収が高まります。ケイ酸がイネの葉・茎に運ばれて、光合成能力を高めるとともに、割籾を軽減し、病気や倒伏に強くする働きがあります。

《 含鉄資材の効果 》

根腐れ、下葉の枯れ上がり防止、ごま葉枯防止